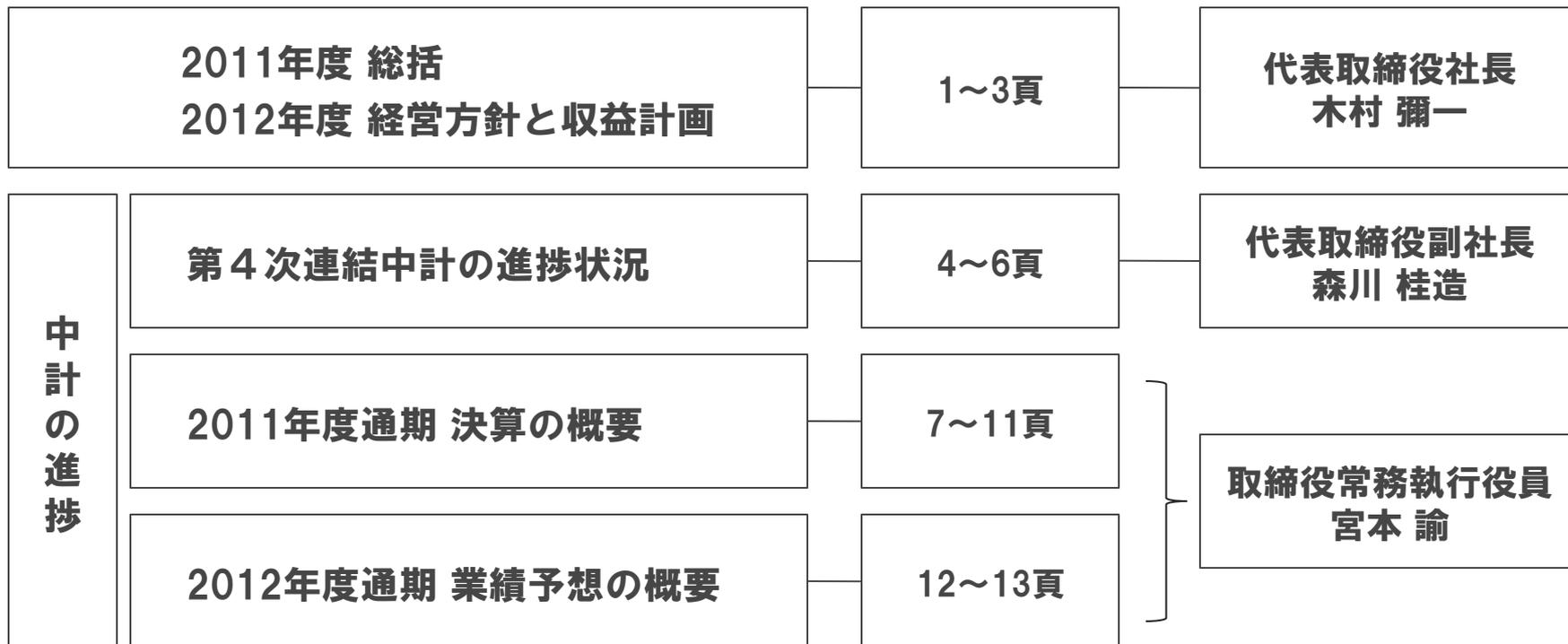


コスモ石油（株） 第4次連結中期経営計画 2011年度進捗状況と今後の方針

2012年5月9日

代表取締役社長	木村 彌一
代表取締役副社長	森川 桂造
取締役常務執行役員	宮本 諭

本日のご説明内容



連結経常利益実績（在庫評価除き） 362億円（前年比376億円減益）
千葉製油所稼働停止により大幅減益

■ **千葉製油所 稼働停止**

⇒ ①代替供給コスト負担の発生 ②輸出停止 ③マージン縮小

■ **原油生産数量減少するもグループ収益を下支え**

連結経常利益予想（在庫評価除き） 940億円（前年比578億円増益）

石油事業・石油開発事業が収益改善を牽引

第4次中計最終年度の総仕上げ

■ 千葉製油所 再稼働

⇒ ①代替供給コスト負担の解消 ②輸出再開 ③マージン適正化

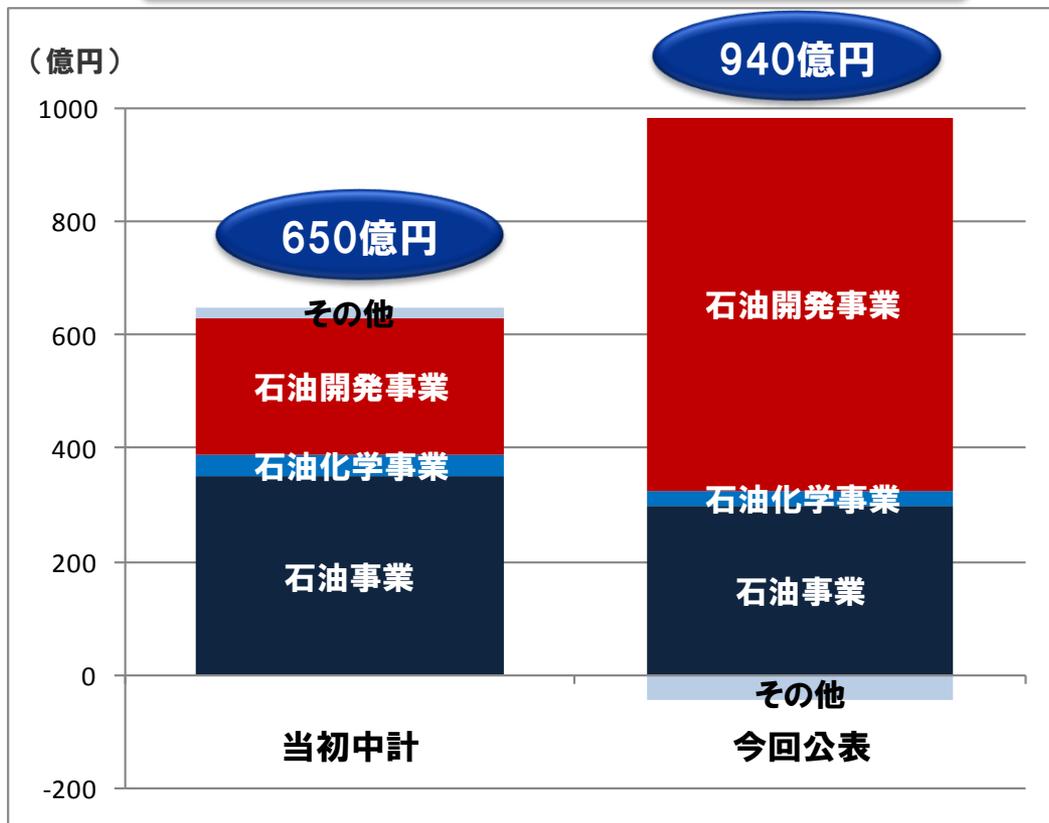
■ 原油生産数量回復

■ 供給体制再構築

千葉製油所の**安全安定操業**が
収益回復実現の大前提

当初中計比 290億円増益の計画
石油開発事業の収益拡大により大幅増益

2012年度 連結経常利益計画（在庫評価除き）



<前提>

	当初中計	今回公表
原油価格 (\$/BBL)	75.0	115.0
為替 (¥/\$)	90.0	80.0

原油生産数量拡大に向けた取組み

カタール

- 新油田「A構造南部油田」（2011年4月生産開始）
早期安定生産により9,000BD体制を確立（従来6,000BD）

アブダビ

- 新鉦区「ヘイル油田」
3D地震探鉦の準備作業中

オーストラリア

- AC/P4鉦区
探鉦井の掘削作業に移行

鉦区図<14~16頁参照>

原油高を最大限享受 ⇒ 石油開発事業の収益規模拡大

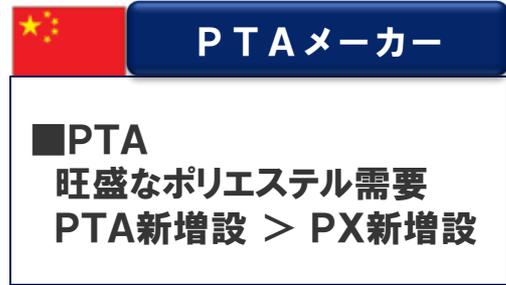
アロマ事業拡大

- MX生産規模拡大：既存30万トン + **新設30万トン**（2012年4月生産開始）⇒ 60万トン体制
- PX生産規模拡大：既存38万トン + **新設80万トン**（2012年末完成予定）⇒ 118万トン体制
- BZ生産規模拡大：既存12万トン + **新設11万トン**（2012年末完成予定）⇒ 23万トン体制

コスモ石油グループ



<17~18頁参照>

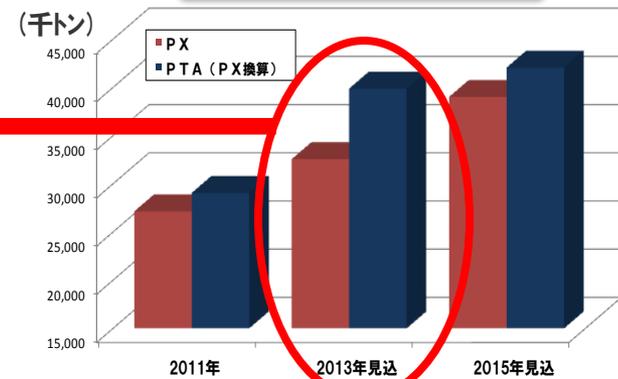


PX需給タイトなタイミングでの生産開始

↓

石油化学事業を**収益の柱のひとつ**に

PX/PTA生産能力



MX: ミックスキシレン
PX: パラキシレン

BZ: ベンゼン
PTA: テレフタル酸

※生産能力はアジア・オセアニア・中東の能力。
※CMAI、化学工業日報等より、当社にて作成。

2011年度までのエコ・パワー社の実績

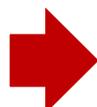
- メンテナンス力の強化が実り、既設サイトで安定した収益を確保
- 2010年の買収以後、黒字体質に転換



2012年度以降の方向性

2012年7月施行予定の
全量買取制度により
事業採算性が向上

系統連系量の拡大や
規制緩和の推進により
事業機会が増大



風力発電事業による収益の拡大を目指し、新規サイトの開発を検討

1 11年度、千葉製油所の稼働停止による影響額は代替供給コストを中心に約540億円に達した。加えて、税制改正に伴う繰延税金資産の取り崩しの影響もあり、当期純損失91億円を計上。

2 12年度は千葉製油所の再稼働により代替供給コストが概ね解消し、本格的な輸出の再開も可能になる。また、機動的な生産調整による石油製品マージンの適正化に取り組むことを踏まえ、石油事業を中心に増益を予想。

(単位:億円)

	11年度 通期実績	10年度 通期実績	前年比
売上高	31,097	27,715	3,382
売上原価	29,182	25,390	3,792
販管費	1,279	1,284	△ 5
営業利益	636	1,041	△ 405
営業外損益	△ 22	△ 80	58
経常利益	614	961	△ 347
特別損益	△ 260	△ 226	△ 34
法人税等	389	422	△ 33
少数株主利益	56	24	32
当期純利益(損失)	△ 91	289	△ 380

【参考】

在庫評価の影響	252	223	29
在庫評価除き 営業利益	384	818	△ 434
在庫評価除き 経常利益	362	738	△ 376

	11年度実績	10年度実績	前年比
連結経常利益	614億円	961億円	△347億円
在庫評価の影響(※)	252億円	223億円	29億円
連結経常利益 (在庫評価影響除き)	362億円	738億円	△376億円
受入原油価格 為替	原油: 110.87\$/B 為替: 79.02円/\$	原油: 82.17\$/B 為替: 86.04円/\$	原油: 28.70\$/B 為替: △7.02円/\$

連結経常利益 セグメント別内訳

	11年度実績	10年度実績	前年比
石油事業	80億円	584億円	△504億円
石油事業 (在庫評価影響除き)	△172億円	361億円	△533億円
石油化学事業	21億円	△3億円	24億円
石油化学事業 (在庫評価影響除き)	21億円	△3億円	24億円
石油開発事業	520億円	347億円	173億円
その他	△7億円	33億円	△40億円

※在庫評価の影響 石油事業: 252億円



単位:億円

	実績 (12年3月末)	前期末 (11年3月末)比
営業活動によるキャッシュ・フロー	436	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 258	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	116	-
期末のキャッシュ残高	1,224	281

	実績 (12年3月末)	前期末 (11年3月末)	増減
総資産	16,751	15,794	957
純資産	3,374	3,502	△ 128
自己資本	3,169	3,327	△ 158
自己資本比率	18.9%	21.1%	2.2ポイント悪化
有利子負債	7,212	7,001	211
有利子負債依存度	43.1%	44.3%	1.2ポイント改善
D/Eレシオ(倍)	2.3	2.1	0.2ポイント悪化
ネット有利子負債※	5,988	6,058	△ 70
有利子負債依存度	35.7%	38.4%	2.7ポイント改善
D/Eレシオ(倍)	1.9	1.8	0.1ポイント悪化

※有利子負債総額から現預金および短期運用資金残高を控除したもの

	12年度予想	11年度実績	前年比
連結経常利益	940億円	614億円	326億円
在庫評価の影響	0億円	252億円	△252億円
連結経常利益 (在庫評価影響除き)	940億円	362億円	578億円
受入原油価格 為替	原油: 115.00\$/B 為替: 80.00円/\$	原油: 110.87\$/B 為替: 79.02円/\$	原油: 4.13\$/B 為替: 0.98円/\$

連結経常利益 セグメント別内訳

	12年度予想	11年度実績	前年比
石油事業	300億円	80億円	220億円
石油事業 (在庫評価影響除き)	300億円	△172億円	472億円
石油化学事業	25億円	21億円	4億円
石油化学事業 (在庫評価影響除き)	25億円	21億円	4億円
石油開発事業	660億円	520億円	140億円
その他	△45億円	△7億円	△38億円

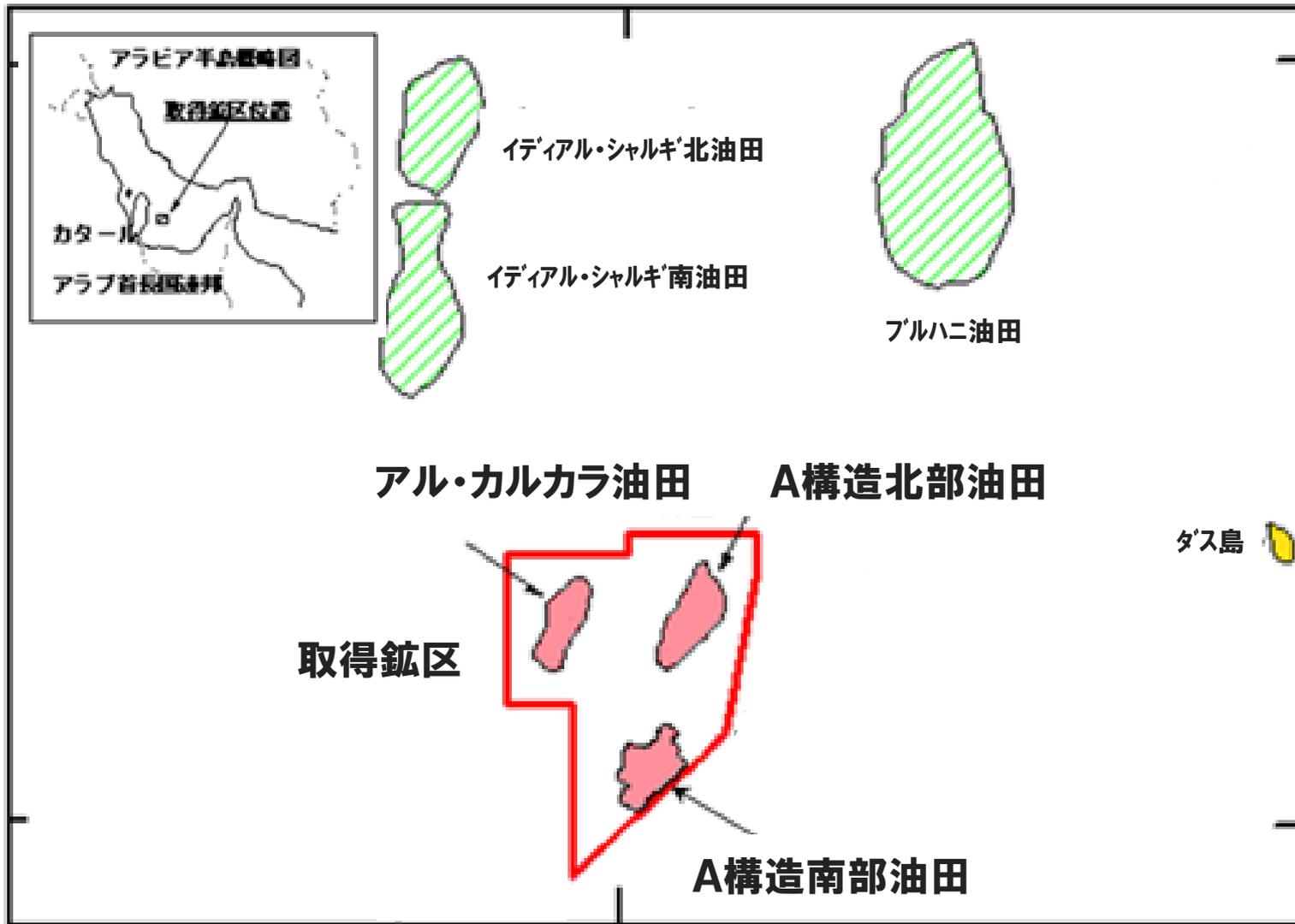


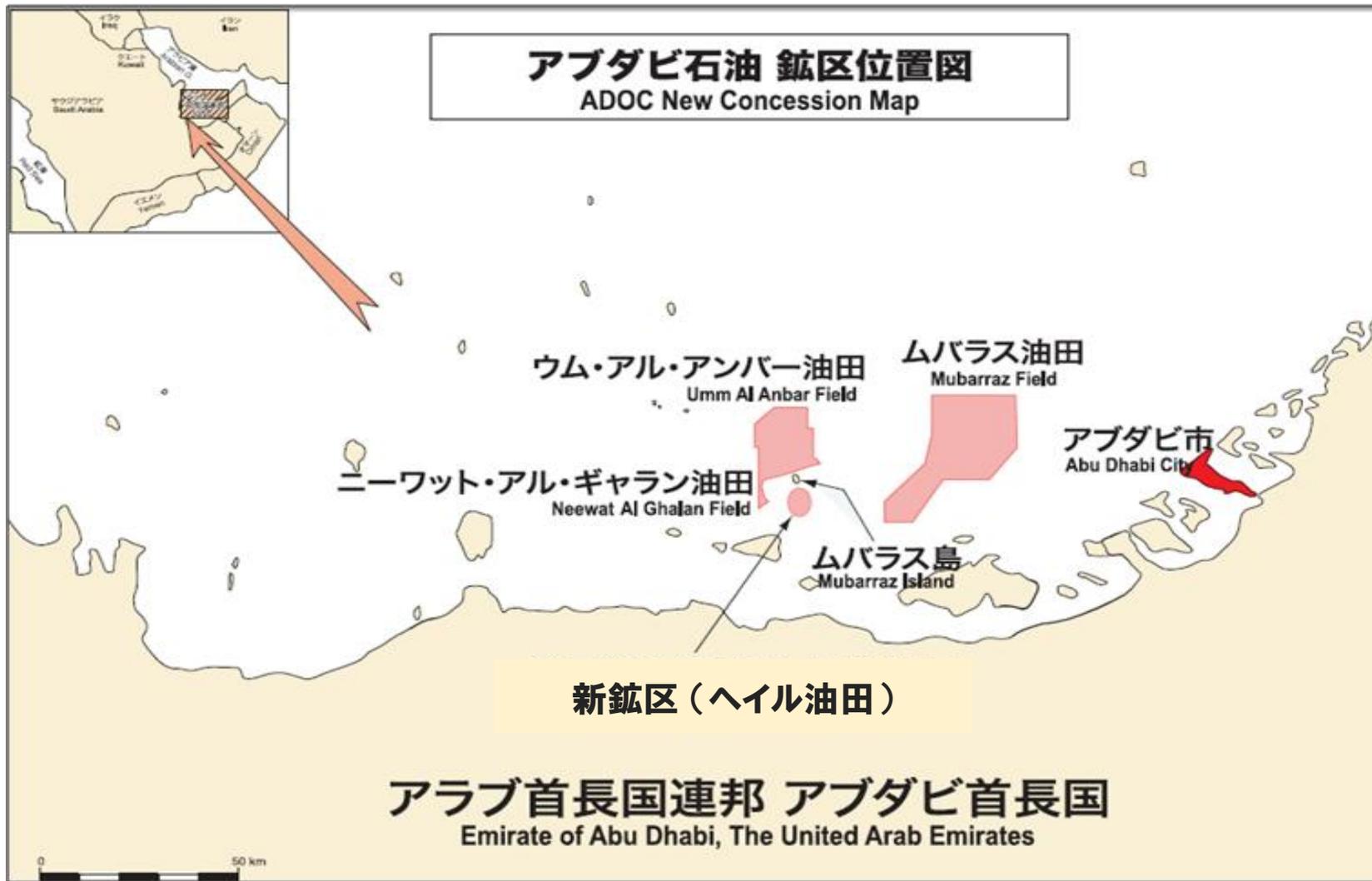
補足資料

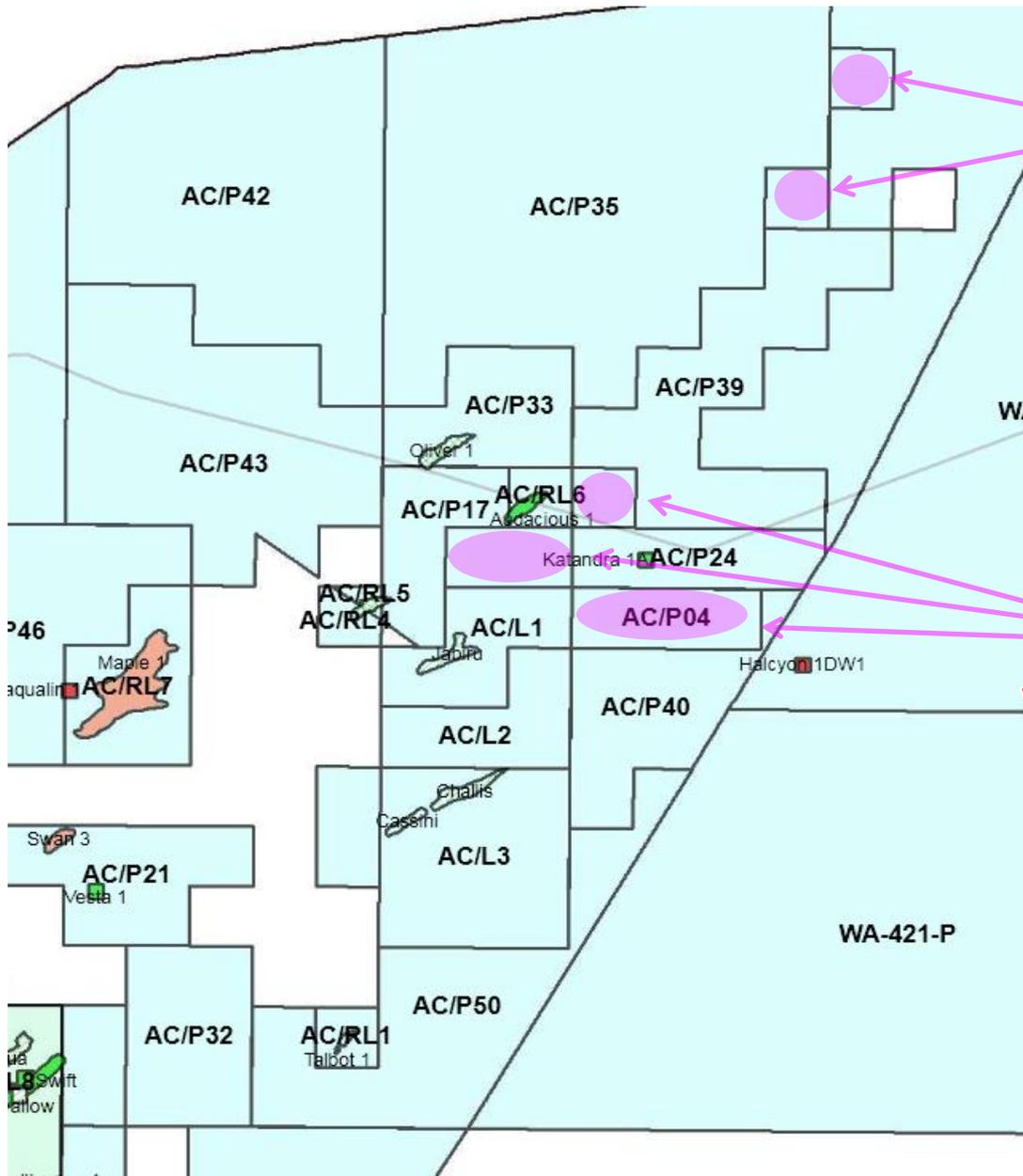
- P14～16 : 【ご参考】 石油開発 鉱区図（カタール・アブダビ・オーストラリア）
- P17～18 : 【第4次中計(石油化学事業)】アロマ事業拡大(PX事業参入① ②)
- P19 : 【第4次中計(環境・新エネ事業)】ALA事業
- P20 : 【11年度実績・12年度予想】 販売数量
- P21 : 【11年度実績】 原油コスト・処理量、稼働率、原油生産数量
- P22 : 【11年度実績・12年度予想】 セグメント別分析 前年比 および 感応度
- P23 : 【11年度実績・12年度予想】 連結設備投資、減価償却費の概要
- P24 : 【11年度実績】 人員数、油槽所数、SS数、カード枚数推移
- P25 : 【ご参考】 軽油輸出の実績・マージン環境
- P26～27 : 【ご参考】 石油化学事業 アロマ市況① ②

※最新の「データブック」および「用語集」は以下URLのIRサイトに掲載しています。

<http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/financial/index.html>







AC/P4鉱区

AC/P4鉱区





韓国の有利な税制メリットを享受

- 1. 有利な法人税率(22.0%)の活用
- 2. 外資出資会社への税制優遇制度の活用

【課税所得発生後の課税概要】

- ① 1～5年目 11.0%
- ② 6～7年目 16.5%
- ③ 以降 22.0%

PX

HCP

MX



中国のマーケット環境を享受

- 1. 旺盛なポリエステル需要
- 2. 上記にともなうPXマージンの高騰

日本の税制およびMX装置の活用

- 1. 海外子会社配当益金不算入制度
- 2. コスモ石油のMX製造装置をフル活用

- ① 既存MX装置(CMアロマ等)
 - ② 新設MX装置(四日市製油所)
- 上記合計でMX60万t/年供給

コスモ石油

ヒュンダイオイルバンク(HDO)

50%出資

50%出資

合併会社 Hyundai Cosmo Petrochemical Co.,LTD
 設立 : 2009年11月
 営業開始 : 2010年 2月
 資本金(設立時) : 100億ウォン

STEP1

HDOより既存装置譲渡(2010年2月)

◆PX:38万t/年 BZ:12万t/年

PX事業譲渡

ナフサ供給

STEP2

既存MX装置
CMアロマ等

MX
30万t

新設MX装置
四日市製油所にて
2011年完成

MX
30万t

装置新設(2013年稼働予定)

◆PX:80万t/年 BZ:11万t/年

※コスモ石油からの60万tのMX供給に加え
外部からもMXを調達

2013年に
PX118万t/年 BZ23万t/年体制へ

PX:パラキシレン
MX:ミックスキシレン
BZ:ベンゼン

環境分野における新規事業展開

原体事業 ◆青字は事業開始案件

原体

- ◆肥料用・飼料用・健康食品用・研究試薬用の原体製造・販売中
- ◆医薬用の原体製造・販売に向けた体制準備中

ALA原体供給
世界シェア 約80%

肥料事業

最終製品

- ◆液体肥料「ペンタキープ」(農家用)／「ペンタガーデン」(家庭園芸用)販売中
 - ⇒ 農家用液体肥料は堅調に販売（国内に加え、オランダ・イタリア等の欧州でも販売中）
 - ⇒ 家庭園芸用液体肥料は2012年3月より新商品をリリース

飼料事業

- ◆国内向け水産用飼料の販売中(インターベツト社から最終製品販売中)

医薬・化粧品・健康食品事業

- ◆健康食品 ⇒ パートナー企業よりサプリメント販売開始
- ◆化粧品 ⇒ パートナー企業から商品販売中
- ◆脳腫瘍の術中診断・癌治療
 - ⇒ 脳腫瘍術中診断薬の臨床試験中
- ◆育毛剤 ⇒ ミルボン社と共同開発中。

} SBIグループを通じて推進

(千KL)

		2011年度 実績	2010年度 実績	増減	前年比	2012年度予想 (前年比)
内需燃料油	ガソリン	6,249	6,316	△ 67	98.9%	100.4%
	灯油	2,416	2,442	△ 26	98.9%	98.1%
	軽油	4,615	4,462	153	103.4%	98.6%
	A重油	2,196	2,429	△ 233	90.4%	90.5%
	4品計	15,476	15,649	△ 173	98.9%	98.1%
	ナフサ	6,224	6,693	△ 469	93.0%	107.4%
	ジェット	477	533	△ 56	89.4%	103.3%
	C重油	2,555	2,075	480	123.2%	112.9%
	(内 電力C重油)	1,402	840	562	166.9%	127.2%
	計	24,732	24,950	△ 218	99.1%	102.1%
中間留分輸出	軽油	145	907	△ 762	16.0%	1036.6%
	灯油/ジェット	64	219	△ 155	29.3%	754.7%
	計	209	1,125	△ 916	18.6%	949.2%
保税販売他	ジェット	1,535	1,598	△ 63	96.1%	103.3%
	C重油	492	542	△ 50	90.7%	100.6%
	その他	408	426	△ 18	95.9%	169.8%
	計	2,435	2,566	△ 131	94.9%	113.9%
バーター・その他		9,717	10,184	△ 467	95.4%	95.4%
総販売数量		37,094	38,825	△ 1,731	95.5%	105.9%

【1】原油コスト・原油処理量・稼働率

		11年度	10年度	前年比	
受入原油	原油(FOB) \$/BBL	110.87	82.17	28.70	—
	為替レート ¥/\$	79.02	86.04	△ 7.02	—
	受入原油代(税込) ¥/KL	58,610	47,777	10,833	—
原油処理	原油処理量千KL	19,148	25,562	△ 6,414	74.9%
	トッパー稼働率(CD)	51.4%	78.8%	△ 27.4%	—
	トッパー稼働率(SD)	86.2%	89.6%	△ 3.4%	—

※SD: 定期整備等の影響を除いた稼働率

※2010年2月2日にトッパー公称能力削減(635千BD→555千BD)、2011年3月15日に能力増強(555千BD→635千BD)

【2】原油生産数量

		11年度	10年度	増減率	出資比率
開発会社 生産数量 (B/D)	アブダビ石油	22,059	22,909	96.3%	63.0%
	カタール石油開発	6,208	6,236	99.5%	75.0%
	合同石油開発	10,411	13,009	80.0%	45.0%

※生産量: プロジェクト会社の期中平均生産量。(各社12月決算会社のため生産期間は1-12月)

※カタール石油開発は2010年7月20日に出資比率を85.7%から75.0%に変更

※合同石油開発は2010年3月29日に投資比率を35.0%から45.0%に変更

単位:億円

11年度実績	売上高		営業利益		経常利益		経常利益 (在庫評価・低価法影響除き)	
		前年比		前年比		前年比		前年比
石油事業	30,556	3,268	128	△ 535	80	△ 504	△ 172	△ 533
石油化学事業	294	△ 165	9	5	21	24	21	24
石油開発事業	876	177	518	165	520	173	520	173
その他	716	29	15	2	29	2	29	2
調整額	△ 1,345	73	△ 34	△ 42	△ 36	△ 42	△ 36	△ 42
合計	31,097	3,382	636	△ 405	614	△ 347	362	△ 376

単位:億円

12年度予想	売上高		営業利益		経常利益		経常利益 (在庫評価・低価法影響除き)	
		前年比		前年比		前年比		前年比
石油事業	32,600	2,044	375	247	300	220	300	472
石油化学事業	480	186	10	1	25	4	25	4
石油開発事業	980	104	630	112	660	140	660	140
その他	850	134	20	5	30	1	30	1
調整額	△ 1,410	△ 65	△ 75	△ 41	△ 75	△ 39	△ 75	△ 39
合計	33,500	2,403	960	324	940	326	940	578

感応度

	石油事業	石油開発事業
原油 +1 \$ / B	+12 億円	+6 億円
為替 +1円 / \$	+17 億円	+8 億円

※上記は原油価格・為替変動の在庫評価益、自家燃コスト、タイムラグに対する影響(低価法の影響は考慮せず)

※当感応度の期間については石油事業が2012年4月～2013年3月までの1年間、石油開発事業が2012年4月～12月の9ヵ月間で試算した数字

設備投資・減価償却費等

単位:億円

【11年度実績】

	11年度実績	前年比
設備投資	279	△ 365
減価償却費等	506	△ 5

【12年度予想】

	12年度予想	前年比
設備投資	947	668
減価償却費等	453	△ 53

設備投資 セグメント別

単位:億円

【11年度実績セグメント別前年比】

	11年度実績	10年度実績	前年比
石油事業	175	426	△ 251
石油化学事業	5	11	△ 6
石油開発事業	96	220	△ 124
その他	2	1	1
調整額	1	△ 14	15
合計	279	644	△ 365

【12年度予想セグメント別前年比】

	12年度予想	11年度実績	前年比
石油事業	274	175	99
石油化学事業	9	5	4
石油開発事業	641	96	545
その他	35	2	33
調整額	△ 12	1	△ 13
合計	947	279	668

【1】人員数推移

	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
石油単体	1,729	1,718	1,916	1,957	2,064	2,180	2,135	2,025
グループ	3,480	3,451	3,335	3,299	3,269	3,325	3,268	3,098

※各年度3月末時点

※グループ:(08年度まで)石油単体+出向 (09年度以降)石油単体+出向+試備員+シニア社員

【2】油槽所数推移

	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
DT数	38	38	38	38	38	36	35	35

【3】運営者別SS数推移

	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
販社	1,065	1,190	1,122	1,104	1,023	1,025	967	939
特約店	3,639	3,361	3,237	3,021	2,890	2,743	2,642	2,559
固定式SS計	4,704	4,551	4,359	4,125	3,913	3,768	3,609	3,498
可搬式SS	107	95	57	53	47	43	36	34

※05年度までは12月末時点とし、06年度からは3月末時点

【4】セルフSS数推移(固定式SSの内数)

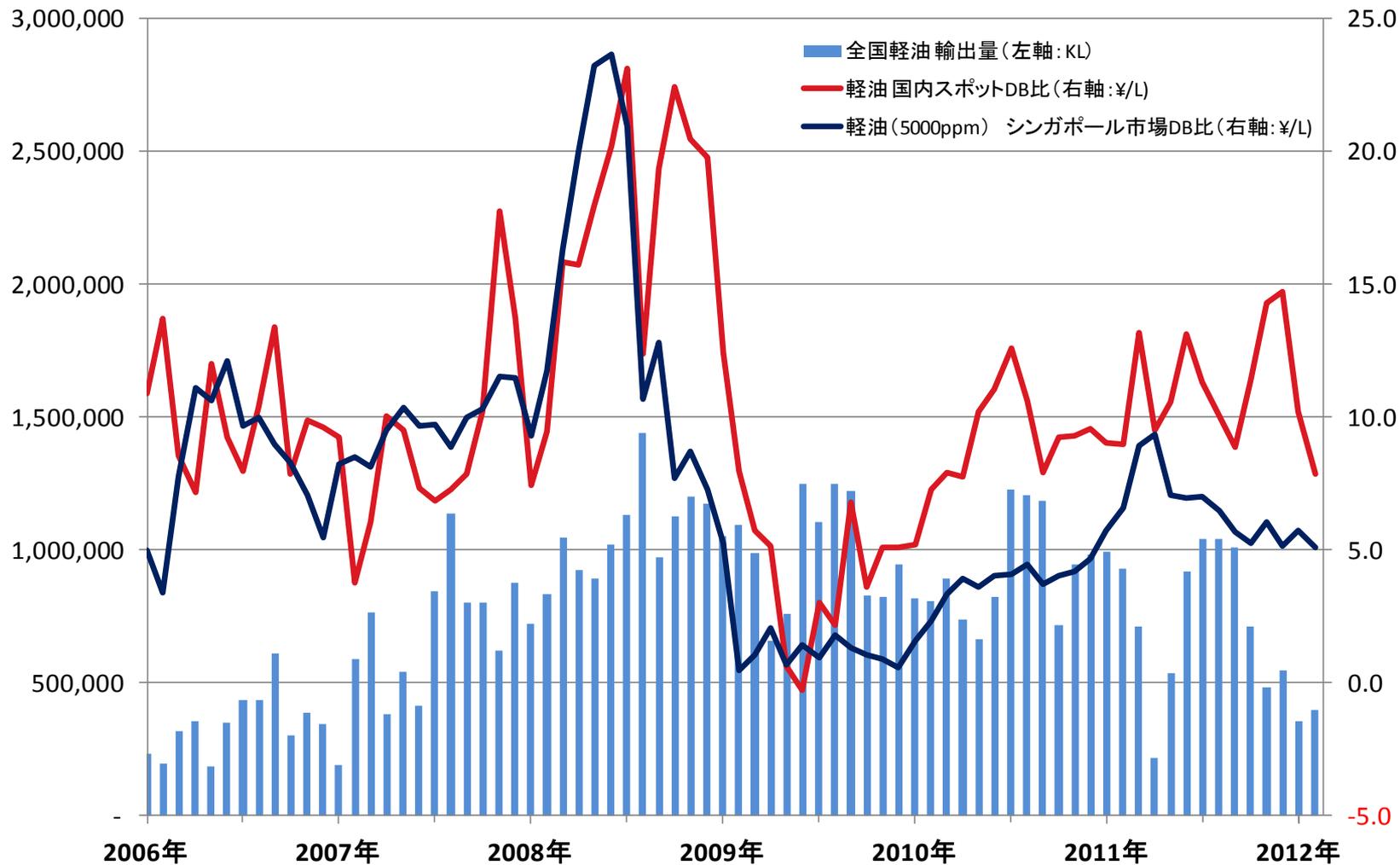
	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
販社	295	370	463	507	551	575	548	570
特約店	188	256	326	360	404	429	455	437
合計	483	626	789	867	955	1,004	1,003	1,007
セルフSS数比率	10.3%	13.8%	18.1%	21.0%	24.4%	26.6%	27.8%	28.8%

【5】コスモ・ザ・カード枚数推移(06年度よりオーパスも含む数値)

(万枚)

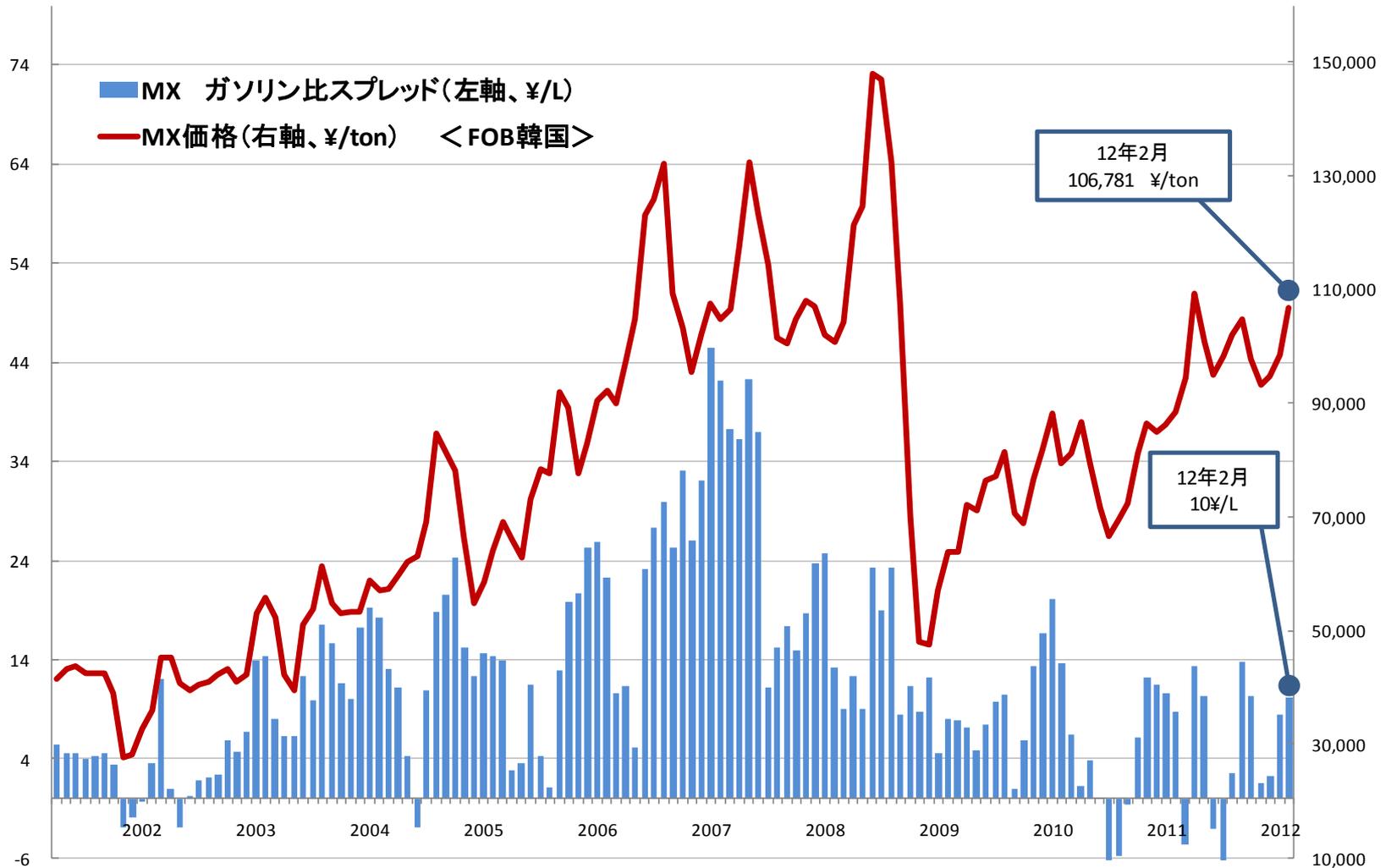
	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
有効枚数	242	255	280	305	335	357	367	393

軽油の輸出量と国内／海外マージンの推移

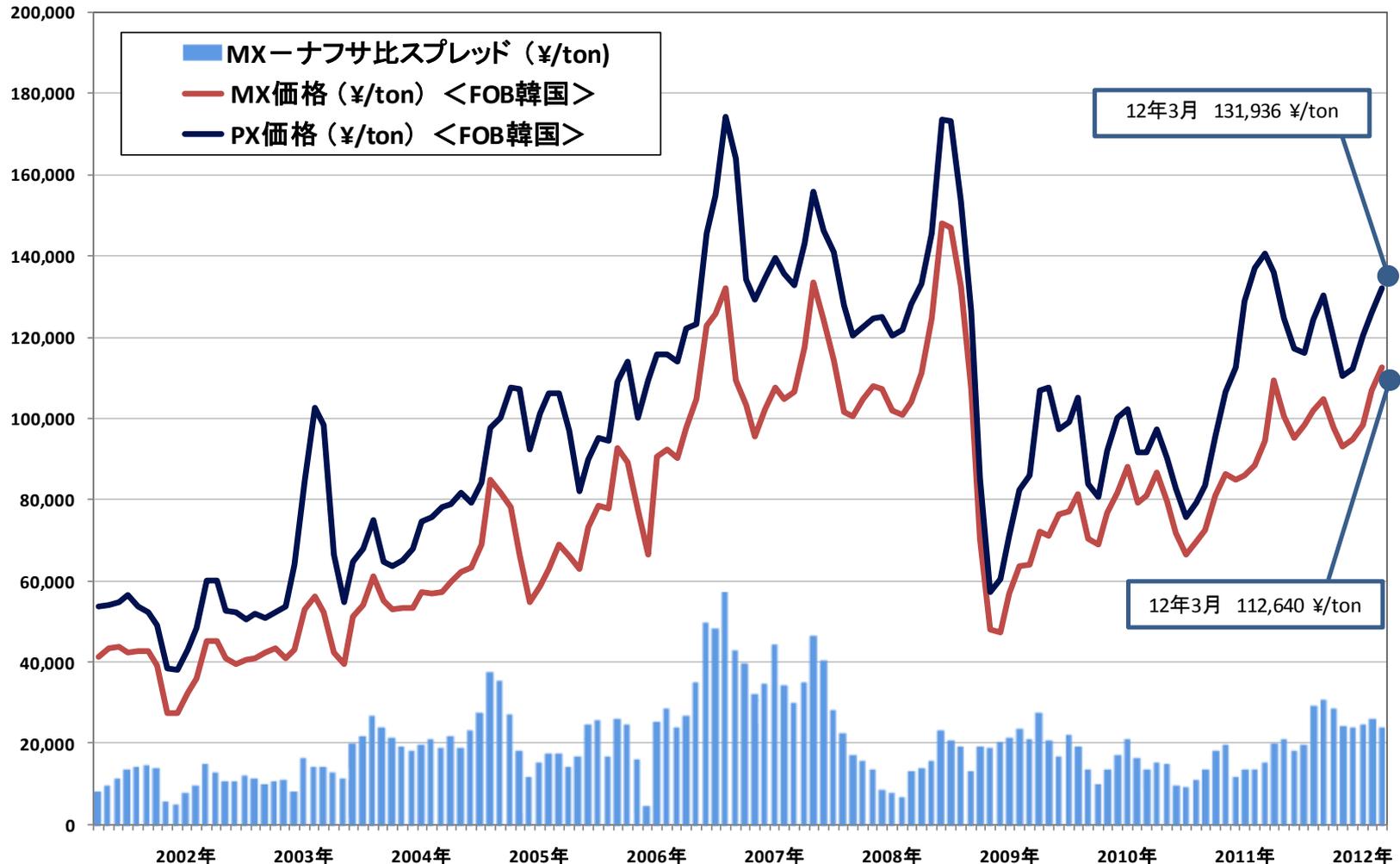


※輸出量実績の公表データは2012年2月が最新情報

【MX市況】MX-ガソリン比スプレッドの推移



【PX・MX市況】MX－ナフサ比スプレッドの推移



見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。